

自然からの 伝言

奥会津



かつて 神話は生きていた。
人間は自然の一部であるとの認識が
確かに存在した時代。
人々は自然が語る言葉を聴くことができた。

ゆきに、ゆき降る、奥会津

冬

凜冽とした冬の寒気が訪れると、奥会津は一夜にして、白き神々の舞う、モノトーンの世界へと変貌する。白く荒ら振る神々の舞の装束のはためきのように、来る日も、来る日もやむことも無く降りしきる雪また雪。

山嶺も、
野も、田も畑も、家も、
深い白銀のなかに
ひっそりと
息をひそめる。
やがてくる
芽生えの春の
生命を育みながら。

雪へ雪降るしずけさにおる 種田山頭火

第一章

太古からの 時の刻み

山浦 芳明

自然写真家

自然との対立にうち克とうとして失ってきたものの大きさに、そろそろ私たちは
気づき始めている。
宇宙の時間、地球の時間、自然の時間、人間の時間
刻み方はそれぞれに異なっている。
そして、なお、交叉している。
天文学的な倍率の、その交叉の一瞬を、私たちは今、共有している。

繰
り
返
さ
れ
る
新
た
な
る
黎
明